愛・会い・合い

Season Ⅱ

尾張旭市立東中学校
令和７年度第２学年
学年通信　第３０号

正しいことを正しいと言える学年に♪

「学校にスマホやお菓子などの不要物を持ってきてはいけない。」

皆さん、これが学校のきまりであることは、さっと全員が知っていることだと思います。しかし、そのようなルールを全員が必ず守っているかというと、そうでないことが時々あります。もしかしたら、皆さんの中にも、そのような残念なことを、目撃したことがある子もいるかもしれません。

おそらく、ほとんどの子が決められたルールを守って、学校生活を送っていることと思います。そのような皆さんから見て、ルールを無視して、不要物を持ってきた子について、どう思いますか？

「私達はちゃんとルール守って生活しているのに、その子達だけずるい。真面目にやっている人が損するじゃないか。」という考え方は、先生は間違っていると思います。真面目にやっている人は、決して損などしていません。その人の正しい行いは、まわりのみんながしっかりと見てくれています。

実際、損をしている、というか、まわりから「あの子、大丈夫？」と心配されたり、「あの子がやっていること、ちょっとおかしいよね。」と軽蔑されるのは、ルールを守っていない子の方です。だから、今ちゃんと正しいことができている人は、自信をもってそのまま正しいことを続けてください。

ところで、そもそも、スマホは本当に学校生活に必要ないのでしょうか。今の時代、登下校の際に親と連絡を取ったりするため、スマホを学校に持ってくるのを認めるという考え方もあります。先生も、必要か不要かは難しい問題だと思います。ただ、先生の教師人生の中で、今までスマホを学校に持ってきて指導した子のほとんどは、必要だから持ってきたという訳ではなく、興味本位で持ってきて、不必要な使い方をしていました。結局、このように、みんなが正しい使い方ができるという保証がないため、東中も含め、多くの学校では、まだスマホの持ち込みを認めていません。まわりくどい言い方をしてしまいましたが、今回の問題は、スマホが必要か不要かという議論とは全く関係なく、学校で決められたルールを守れない子がいる、という点なのです。「なぜそのルールがあるのか」と「決められたルールを守れるかどうか」は、全く別の問題なのです。本当にそのルールを変えた方がいいと思うなら、正しい行いをできるという姿を見せて、みんなで議論すればいいのです。少なくとも、ルールを守れない子がいて、さらに間違った使い方をしている状況がある場合は、到底ルールを見直すなんて程遠いことですが…。まずは、みんなが正しい行いをするってことが、まわりの信頼を勝ち取る大前提なのです。

さて、２学期には、みんなが楽しみにしている野外活動や学校祭などが待っています。また、3年生の修学旅行に向けての準備も、もう先生達の中では始まっています。みんなが楽しめる野外活動に、魅力的なプランいっぱいの修学旅行に、いつも一生懸命のみんなの頑張りに応えるために、先生達もいろいろな企画を思い描いています。もちろん、そんなことはないと信じていますが、みんなの中にもしルールを守れない人が出てくるようであれば、残念ながら野外活動中の自由はどんどんなくなっていきます。そして、野外活動中に不要物を持ってくるなど、ルールを守れない子が一人でも出た場合、来年度の修学旅行は、制限ばかりで、自由に楽しめるものではなくなってしまうでしょう。一人の身勝手な行動が、みんなの大切な思い出に傷を付けてしまうかもしれません。学校生活や野外活動中に、軽い気持ちで身勝手な行動をしたり、これぐらいいいやって不要物を持ってきたりした場合、その人は、学年みんなの大切な思い出をぶち壊す責任を、果たして取ることができるのでしょうか？

みんながちゃんと正しい行いをして頑張るから、先生達もそれに全力で応えてあげたい。でも、その期待を裏切る人がいれば、より強いルールでみんなを押さえつけなくてはならなくなります。もちろん、そんなことはしたくありません。東中２年生のみんななら、きっと全員がこの話を理解して、正しい行いをしてくれると信じています。前回の通信に書いたように、“今までにない最高の野外活動”を創り上げるために、一人一人の自覚と責任が、何よりも大事になってきます。

最後に。もし、まわりの友達でルールを守れず間違った行動をしている人を見たら、ぜひその子に教えてあげてほしい。見逃す、見過ごすのは、本当の友達ではありません。本当の友達とは、相手の間違った行いを心配して、その子のためにちゃんと正しいことを伝えてあげられる人です。そして、教えてもらった人は、「なんでそんなこと言われなきゃいけないの」と突っぱねるのではなく、自分のことを思って言ってくれたんだと素直に聞いてほしい。教えてくれた子は、あなたのことを本当に大切に思って、自分が嫌われることを覚悟で言ってくれた、本当に大事な存在です。そういう、本当の意味で高め合える友達関係が広がっていくと、クラスや学年は今よりもさらに良い集団になっていくと思います。まさしく、“愛・会い・合い”あふれる学年です!! でも、どうしても自分で言いにくい場合は、まわりの大人（親や先生）を頼ってください。それは、チクるとかではありません。相手を心配して守ってあげるための、本当に尊い行いです。ぜひ、安心して、大人に助けを求めてください。

では、みんながこの後の学校生活でも、決められたルールを守って過ごし、野外活動でも『不要物ゼロ、自分勝手な行動ゼロ』で、全員が楽しめる最高に素敵な野外活動になることを期待しています。

あなた達なら、できます。先生達は、あなた達のことを信じています。当たり前のことを当たり前にできる学年に。正しいことを正しいと言える学年に。一緒に、頑張りましょう♪

学年主任　河田映仁(18)